

d

# dasMOD Real estate developer

Carlsbad / dasMOD: Real estate developer

散りばめられたアイデアが作り出す、素敵な住空間

平屋で暮らすという事には、色々な魅力があるけれど、  
伸びやかな一面のルーフラインもチャームポイントの一つ。  
そんな素敵なデザインを存分に味わえるのが、カルスバッドに暮らすこの家だ。

Photos / Tomoko Matsubayashi Text / Maxenti Ogawa  
Special Thanks to dasMOD [www.dasmod.com](http://www.dasmod.com)



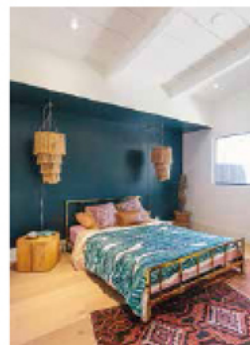
**H**ardly any other style of architecture is as timeless and captivating as the flat roof house. Open, spacious rooms give space for innovative, dynamic designs that blend the old with the new. With inside-outside spaces that stretch out past the beautiful wooden terrace and pool, it feels like a resort with all the comforts of home.

南カリフォルニアの中でも、独自の豊かさを感じながらスローライフを送れる地域が、サンディエゴの北部にあたるエリア。エンシニータスや、カーディフなどのシティが集まる地域だが、そのエリア内の北側に位置するのがカールスパッ

ドだ。サーフポイントはもちろんの事、著名なゴルフコースやラ・コスタなどの巨大なラグジュアリー・リゾート、大きなアウトレット・モールなどもあるため、名前を聞いた事がある方もいるだろう。

この北サンディエゴエリアで、ダイナミックなデザインをベースに住宅リノベーションを手がけるデベロッパー“ダスマッド”から、カールスパッドに新しい住宅が完成したとの連絡を受け、早速現地に行ってみた。カリフォルニア州を南北に縦断するインターステーツ5号線、通称I-5を降りて山側に5分の場所。大きな敷地面積の家が立ち並ぶ中、クリア





ビューという通りに面し、この大きな家は建つ。約ハーフェーカーズ（約2100㎡）の土地に総床面積440㎡という、ビッグサイズプロパティだ。元来ランチスタイルと呼ばれる細い幅の細いタイプの家をベースにリモデルしているが、リビングスペースの増築だけでも100㎡以上あるため、道路に面する建物の長さは軽く25mはあろうかという巨大な竹まゝ。このサイズで平屋なのだから、前面道路から見た外観のインパクトはかなりのものだ。

道路からコンクリートで造形されたアプローチを進む。外壁にはバームスプリングス付近で採れるという薄いブルーの

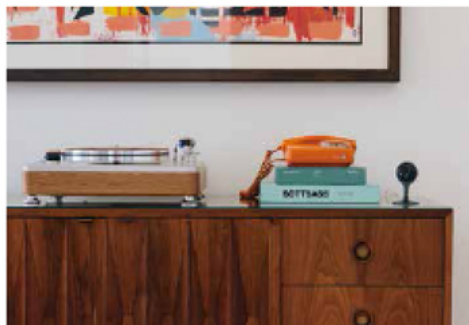
ターコイズロック、そこにアイコニックな変形ヘキサゴンウインドがセットされ、この家がデザインハウスである事をアピールする。さらにその横にあるエントランスドアを開くと、巨大なリビングエリアの広さに圧倒される。デザインを担当したダスマッドの担当者曰く、やはり居心地の良いミッドセンチュリーモダンをテーマに、その要素を家全体に散りばめているとの事だが、家の中心部にあるリビングにもその特徴は色濃く表現されている。家の中に3ヶ所のファイヤープレイス（暖炉）があるが、中でもリビングエリアとダイニングエリアに挟まれた場所に位置するそれは、著名なあるケー

ス・スタディ・ハウスのレイアウトを連想させるもの。ただし暖炉から天井へとつながる大きなダクト部分全体を包み込むパネルには、質の良いマテリアルが使用され、新しい感覚でデザインされている事が伝わってくる。

一方、リビングからダイニングにかけては美しいビームが残されたままのボーテッド・シーリングが響くが、さらに面白いのはキッチンエリア。この部分にのみ、前述の暖炉のダクトと同じマテリアルで仕上げられる二重天井がデザインされ取り付けられている。まるでどこかの商業施設で見かけるような大胆なデザインが一般住宅に施されているのだが、こ







**大きな居住空間を活かした  
独自のかつダイナミックな  
デザイン・モチーフ。**

うした大がかりなデザインを落とし込んだ事ができるのも、家のサイズが大きく、しかも美しい天井のラインが、どこまでも伸びやかに続くからだ。

この家の基本スペックは、440㎡に4ベッドルーム+3バスルームという、かなりゆったりとした間取りとなっているが、実は道路から家を抜けると、オーシャンビューを楽しめるウッドデッキとプールエリアに面し、素敵なオフィス・スペースも用意されている。この空間も特徴的で、リビングエリアとデスクエリアに分けられているが、その間をガラスの壁とドアで仕切っている事にも、新しさを感じる。住宅デザ

インというひとつの常識にとらわれず、モールやホテル、ビジネス・オフィスなどのあらゆる場所のデザインエレメントをモチーフとして住宅に用いているのは、デザイナーのセンス以外の何物でもない。

さらに室内外のディテールを見てみると、ダスマッドお得意の新しいタイル素材を駆使した、壁や天井のデザインも実にユニーク。さらに面白いのは、これだけの大きなサイズの家であるにもかかわらず、ポケットドアと呼ばれる引き戸も積極的に採用している事。住環境の違いから、日本では古くから引き戸を使用する事が一般的だが、アメリカの家屋では

殆ど見かける事もなかった。しかし、最新の住宅ではデザインの一部としてはもちろん、そのスペース効率の良さからもポケットドアやハンギングドアが選ばれる事が増えてきている。その引き戸を存分に採用したのが、リビングから続くウッドデッキの間で、段差のないシームレスなサッシを採用する事により、ウッドデッキ、大きなプール、さらに太平洋まで続くインサイド・アウトサイド・リビングを作り出している。最新のカリフォルニアの住宅ではこの工法もかなり一般的になってはきたものの、ダイナミックなビューが作り出す、この眺望は特筆ものだ。